

「教育」を通して」

三春町立三春中学校 三年 小山 賢士

私は今年の夏休みに、子ども議員としてこども議会に参加しました。質問や提言内容を検討する過程で、一番に「人を育てる教育の充実」が町の発展に繋がるのではないかと考え、この事をまとめ提言することにしました。

そのきっかけとなったのは、マリールイズさんの講演を聴いたことです。彼女はアフリカのルワンダ出身で、内戦を経験し、来日されました。彼女は、1993年に青年海外協力隊カウンターパートナーとして、10ヶ月間福島県で洋裁の研修を受けました。そこで習得した洋裁の技術や日本語が、難民キャンプでの生活の助けになり、来日を可能にしたことを話して下さいました。そのご自身の経験から、「紛争が起き難民となった時でも、自分の学び得た事は奪われなかった。ルワンダの再生、発展には教育が必要だ。」と強く実感したそうです。私はこの言葉がとても印象深く、心に残りました。

私は議会に参加し、三春町では老若男女を問わず学ぶ機会や環境が整えられていることを知りました。Wi-Fiや空調が完備された施設があり、様々なワークショップが開催されていることも知りました。他にも町ではどのような教育の取り組みをしているのか興味を持ち、調べてみようと思いました。

町のホームページから、町の予算説明書を見つけました。様々な教育の事業が、町税や地方交付税を財源に行われている事を知りました。私も日頃から税金の恩恵を沢山受けていることに気が付きました。中学校入学時に英語検定、漢字検定、数学検定は検定料の補助を受けられることを、先生から教えて頂きました。そのことがきっかけとなり、私は英語、数学検定の受検を決意しました。このことも私が受けている税金の恩恵の一つです。そして改めて、義務教育期間に無償で授業を受けている事、使用している教科書、快適な学習環境、全てに税金が使われていることに感謝の気持ちを持ちました。また近年、学校教育において最新のIT機器活用や、設備の必要性が高まっていま

す。町ではいち早く小中学生全員にタブレットを準備し、電子黒板の活用や学習アプリの使用が可能となりました。この事業もすべて税金が使用されているのです。

ルワンダのように、意欲があっても学ぶ事が難しい状況にある子ども達もいます。しかし私達は税金の恩恵を受け、多様性のある豊かな教育を受けられている事を知りました。またこれは納税をすることによって「社会全体で未来を担う人材を育てる」という素晴らしい仕組みだと思いました。私は今自分が置かれている日本の教育環境に感謝し、今まで以上に意欲的に学び続けていきたいと思いました。また将来は、自分らしく働き、納税をすることで、社会貢献できる大人の一員になりたいです。